

6920

JASDAQ

レーザーテック株式会社

2011年6月期 通期決算概要

2011年8月17日開催のレーザーテック株式会社(以下、レーザーテック)の2011年6月期決算説明会、ならびにフォローアップ取材の概要をご案内いたします。

2011年6月期 連結決算概要

【表1】にある通り、2011年6月期の連結売上高は、前期比42.4%増の12,722百万円、営業利益は同3.27倍の2,441百万円となった。営業利益率は前期の8.4%から19.2%に改善したほか、販管費率も同29.8%から23.8%に改善した。また、技術部門の一本化施策による開発効率の向上と開発スピードのアップ、製品構成の変更、新製品の売上げ貢献などによる売上高の増加と原価率の改善が業績に奏功した。

開発期間の短縮については、エンジニア間の情報共有や、異なる技術領域の融合による改善が始まっている。特に、ここ1-2年の新製品開発において、その効果が顕在化してきている。また、製品構成の変更は、検収売上までの期間短縮をもたらしている。これは主に、検収までの期間が比較的長いFPD向けカラーフィルタ修正装置の売上が減少し、検収までの期間が相対的に短い半導体関連装置の売上が増加したことによる。半導体向け検査装置については、競合他社との競争から、今後さらなる納期の短縮が求められると予想される。

製品別動向については、【表2】に見られるとおり、全製品で売上が拡大した。受注は半導体関連が前期比73.5%増、FPD関連は同27.6%減、レーザー顕微鏡は同52.0%増、サービスは同10.6%増となった。受注残については、納期短縮を実現し、期中受注案件の期中売上計上を推進した結果、全体では前期比10.9%減となった。

半導体関連装置事業については、主力のフォトマスク欠陥検査装置の売上が、計画の51億円に対して58億円と、当初予想から上ぶれた。この背景には、ヘイズと呼ばれる、マスク上の成長性異物を検査する装置に対する先端半導体メーカーからの需要拡大がある。先端半導体メーカーで使用する最新のリソグラフィプロセスでは、マスクにヘイズが発生しやすい。このため、フォトマスク欠陥検査装置 MATRICS(マトリクス)の新製品、X700シリーズの売上が拡大している。メモリーメーカーだけでなく、ロジックデバイスメーカーに対してもシェアが拡大しており、ウェハファブ向けマスク検査装置市場における MATRICS の市場シェアは、2011年6月期実績で35%となった(会社推定)。

この他の新製品も、業績に貢献し始めている。LEDやレーザーダイオードに用いられるGaN(窒化ガリウム)やサファイアなどの化合物半導体向け、先端リソグラフィ(ArF液浸等)のプロセス向けといった、今後の成長市場に向けた製品の受注も始まっている。特に WASAVI シリーズの SICA61 は、SiC など透明基板の欠陥検査に優れた性能を有し、受注拡大につながっている。

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

FPD 関連装置については、売上こそ当初予想を上回ったが、テレビを中心とした大型パネル需要が一巡、パネル価格が大きく下落し、各メーカーの収益が悪化していることから、受注高、受注残高ともに大きく減少した。

財務状況に関する特記事項としては、転換社債の償還によるシンジケートローンの実行から、借入金が約 35 億円増加した。

●【表 1】2011 年 6 月期 連結決算概要

連結 (百万円)	2010年6月期		2011年6月期			対前期		対予想
	実績	構成比	予想	実績	構成比	増減額	増減率	増減額
売上高	8,931	100.0%	12,500	12,722	100.0%	3,791	42.4%	222
売上総利益	3,404	38.1%	n.a.	5,474	43.0%	2,070	60.8%	n.a.
販管費及び一般管理費	2,657	29.8%	n.a.	3,033	23.8%	376	14.1%	n.a.
営業利益	746	8.4%	1,400	2,441	19.2%	1,695	227.0%	1,041
経常利益	714	8.0%	1,300	2,295	8.0%	1,581	221.4%	995
当期純利益	361	4.0%	850	1,517	11.9%	1,156	319.7%	667
研究開発費	924	10.3%	n.a.	1,011	8.0%	87	9.5%	n.a.
減価償却費	354	4.0%	n.a.	285	2.2%	-69	-19.5%	n.a.
設備投資額	27	0.3%	n.a.	47	0.4%	20	76.4%	n.a.
従業員数(除 役員)	229	n.a.	n.a.	233	n.a.	4	1.7%	n.a.

●【表 2】2011 年 6 月期 製品別売上動向

連結 (百万円)	2010年6月期		2011年6月期		
	実績	構成比	実績	構成比	前期比
半導体関連装置	5,142	57.6%	6,432	50.6%	25.1%
FPD関連装置	2,432	27.2%	4,748	37.3%	95.2%
レーザー顕微鏡	369	4.1%	379	3.0%	2.7%
サービス	986	11.0%	1,161	9.1%	17.8%
合計	8,931	100.0%	12,722	100.0%	42.4%

レーザーテックを取り巻く事業環境

半導体関連市場

震災後、一部半導体メーカーによる設備発注の見送りや納入延期などが発生しており、市場の調整色が強い。このため現在、年初に見込まれていた金融危機後の需要反動増という期待は剥けてしまっており、今年後半から来年前半の半導体メーカーの投資動向は、不透明な状況にある。

そのような環境下、次世代技術への取り組みとして、EUVL 基盤開発センター(以下、EIDEC)の活動が始動し、次世代のリソグラフィー技術である EUVL(Extreme Ultraviolet Lithography: 極めて短波長の極端紫外線を用いて、シリコンウェハに微細な回路イメージを焼き付ける技術)の開発が加速していることや、BSI

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

(Backside Illumination: 裏面照射)型 CMOS イメージセンサーの普及など、レーザーテックの事業機会に広がりが期待できる。

液晶関連市場

大型パネルは中国での投資が一段落し、パネル価格の下落が続いている。各パネルメーカーの収益状況が悪化する一方で、中小型高精細パネルについては、主に日本、韓国メーカーによる投資が始まっており、特に、中小型高精細パネル向けマスクの微細化ニーズが高まっている。

環境等の新分野

パワー半導体関連では、SiC 材料を用いた SBD (Schottky Diode: ショットキーバリアダイオード。金属と半導体の接合によりショットキー障壁を利用したダイオード) の量産が始まっている。SiC 材料を用いた各種デバイスは、今後本格的な量産が進展するとともに、SiC ウェハの大口径化が計画されている。

太陽電池に関しては、急激に市場が拡大しているものの、太陽電池メーカーの在庫増が指摘され始めており、価格下落が著しい。ただし、中期的には成長市場であることは変わりなく、レーザーテックでは、太陽電池変換効率分布測定機を足掛かりに、当市場での検査装置に対する潜在需要を発掘していく。

今後の方針

レーザーテックの強みを活かせる成長分野に、経営資源を積極的に集中投下する。ひとつは、半導体用フォトマスク検査装置市場など、確立した市場でのさらなるシェア拡大を目指す。もうひとつは、半導体の新規アプリケーションやハイパワーデバイス、エネルギー関連といった高成長分野に、強みである光应用技术を生かした製品で市場参入し、新たな事業の柱を打ち立てる計画だ。

2012年6月期 連結業績予想

2012年6月期の連結業績予想の概要は、【表3】、【表4】にある通り。製品別では、半導体関連装置に注力し、受注高100億円を目指す。同時に、受注から売上までの期間短縮を引き続き推進する。FPD関連装置では、カラーフィルター修正装置の事業モデル転換による減収を見込む。LCDパネル市場では、特にテレビ用途を中心とした市場環境の悪化が激しく、当該修正装置に対する値下げ圧力が大きい。このため、台湾、中国エリヤでの販売代理店に製造・販売・サポートを委託し、ロイヤルティ収入モデルに転換した。これにより、売上高は大きく減少するが、粗利率が大きく改善する。

今期予想についても、上期に受注が積み上がり、下期に売上計上という、下期偏重型の傾向に変化はない。上期は受注活動を強化するとともに、検収売上までの期間短縮を図り、最も売上が拡大する第4四半期に向け、刈り取りを強化する。

研究開発費については、研究インフラ増強を中心に、前年度にも増して積極投資を行う。また人員は、海外法人の強化を中心に、7名の増員を計画している。

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

●【表3】2012年6月期 連結業績予想

連結 (百万円)	2011年6月期 実績		2012年6月期 予想				対前期	
	通期	構成比	上期	下期	通期	構成比	増減額	増減率
売上高	12,722	100.0%	4,600	8,600	13,200	100.0%	478	3.8%
半導体関連装置	6,432	50.6%	3,330	5,260	8,590	65.1%	2,158	33.6%
FPD関連装置	4,748	37.3%	350	2,420	2,770	21.0%	-1,978	-41.7%
レーザー顕微鏡	379	3.0%	290	280	570	4.3%	191	50.4%
サービス	1,161	9.1%	630	640	1,270	9.6%	109	9.4%
営業利益	2,441	19.2%	450	2,150	2,600	19.7%	159	6.5%
経常利益	2,295	18.0%	400	2,100	2,500	18.9%	205	8.9%
当期純利益	1,517	11.9%	250	1,350	1,600	12.1%	83	5.4%
研究開発費	1,011	8.0%	n.a.	n.a.	1,469	11.1%	458	45.3%
減価償却費	285	2.2%	n.a.	n.a.	300	2.3%	15	5.4%
設備投資額	47	0.4%	n.a.	n.a.	75	0.6%	28	59.6%
従業員数(除く役員)	233	1.7%	n.a.	n.a.	240	n.a.	7	3.0%

※【表3】、【表4】とも、予想は8月17日付会社発表予想

●【表4】2012年6月期 受注・売上高・受注残高予想

連結 (百万円)	2011年6月期 実績			2012年6月期 予想		
	受注高	売上高	受注残高	受注高	売上高	受注残高
半導体関連装置	8,365	6,432	3,125	10,100	8,590	4,630
FPD関連装置	2,123	4,748	1,443	1,900	2,770	570
レーザー顕微鏡	506	379	136	700	570	270
サービス	1,136	1,161	130	1,300	1,270	160
合計	12,131	12,722	4,834	14,000	13,200	5,630

中期経営計画について

2012年6月期は、9ヵ年中期経営計画(2009年～2018年)のフェーズ0の最終年度になるため、決算概要とともに、中計の進捗について説明があった。計画のフェーズについては、フェーズ0が2009年7月から2012年6月、フェーズIが2012年7月から2015年6月、フェーズIIが2015年7月から2018年6月となっている。

数値目標としては、フェーズ0で事業の選択と集中を行い、連結売上高132億円を見込む。そして、フェーズII最終年度の2018年6月には、コアビジネスと新規事業を合わせ、連結売上高300億円を目指す。

具体的施策として、半導体マスク欠陥検査装置や液晶大型マスク検査微細化対応など、主力製品の次世代機の開発を通じ、既存製品を強化する。ちなみに、これらの開発は今期中に終了させる計画だ。フェーズIでは、既存技術を使い、半導体関連の新市場開拓を目指す。続いて、フェーズIIでは、半導体関連と共に、太陽電池、二次電池をはじめとする環境エネルギー市場など、半導体市場以外でも、既存技術が活用できる市場を開拓する。このために、8月1日付けでマーケティング部を新設し、人員を強化した。

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

フェーズ I に向けて、現在レーザーテックが期待を寄せている製品に、半導体関連、WASAVI シリーズ LP300 がある。これは、ArF 液浸などの先端リソグラフィプロセス検査装置であるが、メモリーメーカーを中心に、他社の既存検査装置の代替需要の可能性をみている。

また、次世代の EUV マスクブランクス検査装置の開発について、前述の EIDEC における国家プロジェクトに参画している。このプロジェクトには、国内大手メーカーのみならず、インテル、サムスン、ハイニックスといった海外大手メーカーも参加し、グローバル規模の水平分業が行われている。当該プロジェクトにおけるレーザーテックの役割は、EUV マスクブランクス検査装置の開発にある。次世代検査装置は、単価は高いものの、出荷台数は限られることが予想され、単独での開発は極めてリスクが高い。レーザーテックでは、このような国家プロジェクトを通じ、次世代技術開発の中核的役割を担い、業界標準を目指すとともに、開発投資コストを抑制し、開発にかかるリスク低減を実践している。

新規顧客開拓については、半導体ウェハ関連事業を中心に強化する。パワーデバイス関連は、前期受注が伸びたが、主力のマスク関連事業に比べ、海外メーカーを中心に顧客開拓の余地が大きいことから、営業アプローチを一層強化する。さらに、レーザー顕微鏡の販売網を活用してのマーケティングを強化する。これは、顕微鏡があらゆる分野で使われることに目をつけた施策である。

質疑応答

Q1 前期と今期の製品別売上の内訳はどうなっているか。

A1 前期、半導体関連装置売上高 64 億円のうち、90%がフォトマスク検査装置で、残りの 10%は新製品関連だった。MAGICS(マジックス)シリーズの売上はなかった。FPD 関連装置売上高は 47 億円強だったが、うち 75%がカラーフィルター修正装置で、残りが大型マスク関連と一部太陽電池関連だった。

前期受注高については、半導体が 83 億円強で、うち 80%がフォトマスク検査装置、マスクブランクス検査装置は 10%、その他新製品関連が 10%だった。FPD 関連装置は受注高 21 億円。そのうち 75%がカラーフィルター修正装置、残り 25%程度が大型マスク関連と太陽電池関連だった。

今期見通しについて、半導体関連装置売上高 86 億円弱のうち、50%がマスク検査装置と見込んでいる。EUVL を含めたマスクブランクス関連が 40%程度で、残り 10%が新製品を予想している。FPD 関連装置の売上高については 27 億円を予想しているが、うち半分がカラーフィルター修正装置、残り半分が大型マスク検査装置と太陽電池関連とみている。

今期の受注高は、半導体関連装置が 101 億円と予想しており、55%がマスク検査装置、35%がマスクブランクス、10%が新製品関連と見込んでいる。FPD 関連装置は、事業モデル変更の影響で 19 億円と減少する見通しで、内訳は、25%がカラーフィルター修正装置、75%が大型マスク検査装置と太陽電池関連と想定している。

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

Q2 震災後の業界動向を厳しくみる予想が多いなか、御社は今期、増収増益の予想だが、半導体製造装置を中心に業績悪化懸念はないのか。

A2 半導体用マスク検査装置のシェアアップと、昨年投資が行われなかったマスクブランク検査装置の売上拡大を目指す。また、顧客メーカーへのヒアリングの結果、来年4月以降からの回復予想が多い。これらのことから、会社予想は達成できると考えている。

Q3 台湾のファウンドリーの投資状況について、どのような見通しか。

A3 DRAM 価格が低迷している中、メモリーメーカー向け販売が軟調になっている。ただし、ロジックデバイスについては、iPhone5をはじめ、機能向上が進むスマートフォンやゲーム関連の新製品向けにファウンドリ一間の受注獲得競争が激しく、投資の手は緩められないと見ている。

Q4 EUVL 基盤開発センター(EIDEC)プロジェクト向け売上げは、来期以降も続くのか。

A4 露光波長(13.5nm)を使った検査装置は確実に必要となるため、露光波長を用いたマスクブランク検査装置の開発を進めている。EIDECにおける EUVL マスクブランク検査技術開発の共同実施は、来期以降の予想はしにくいですが、数年単位のプロジェクトであることから、中期的にさらなる受注が見込まれる。

なお、半導体企業の米国コンソーシアムである SEMATECH(セマテック)でも同様の取り組みがなされているが、当該コンソーシアムにおいても、当社がマスクブランク関連の研究を担っていた。昨今は、世界的な分業体制が構築されつつあると実感している。

Q5 今期の業績予想について、増収増益であるが、これは努力目標なのか、あるいは達成確度の高い予想か。

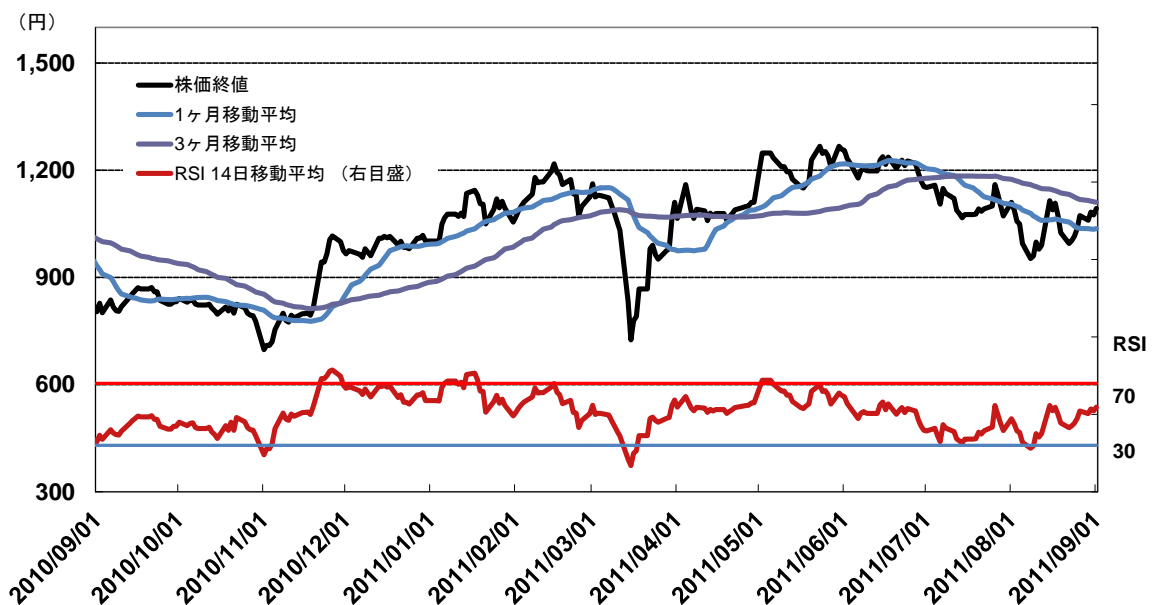
A5 予想の立て方としては、例年通り、数字を積み上げた予想となっており、努力目標ではない。☞

ご参考
● 連結主要指標と業績の推移

主要株式指標			主要財務データ		
発行済み株式数(株)	2011.6月	11,785,800	総資産(百万円)	2011.6月	20,962
うち自己株式数(株)	2011.6月	520,792	自己資本(百万円)	2011.6月	13,449
時価総額(百万円)	2011.9.1	12,882	有利子負債(百万円)	2011.6月	3,591
1株当純資産(円)	2011.6月	1,193.91	自己資本比率(%)	2011.6月	64.2
ROE(%)	2011.6月	11.2	有利子負債比率(%)	2011.6月	26.7
ROA(%)	2011.6月	7.2	フリーキャッシュフロー(百万円)	2011.6月	3,251
PER(倍)	2012.6月予	7.7	注: ROE=当期純利益÷期末自己資本		
PCFR(倍)	2011.6月	7.1	ROA=当期純利益÷期末総資産		
PBR(倍)	2011.6月	0.9	PCFR=時価総額/(当期純利益+減価償却費)		
株価(円)	2011.9.1	1,093	日々平均出来高=過去1年間の平均		
単元株数	2011.6月	100	有利子負債比率=有利子負債÷自己資本		
日々平均出来高	2011.9.1	25,117	フリーキャッシュフロー(FCF)=営業CF+投資CF		

連結 (百万円)	売上高	営業利益	経常利益	純利益	1株益(円)	1株配(円)
2008年6月期	14,136	3,100	3,156	1,888	165.22	50.00
2009年6月期	9,266	-657	-659	-651	-57.82	15.00
2010年6月期	8,931	746	714	361	32.10	15.00
2011年6月期	12,722	2,441	2,295	1,517	134.72	41.00
予2012年6月期上期	4,600	450	400	250	22.19	n/a
予2012年6月期	13,200	2,600	2,500	1,600	142.03	43.00

注 2012年6月期予想は、2011年8月17日発表の会社予想

● 株価チャートとRSI


出所: BloombergのデータをもとにTrias作成

注: RSI(Relative Strength Index)とは株価の「買われ過ぎ」や「売られ過ぎ」を指数で表したもので、一般的にRSIが70を超えると高値圏、30以下では安値圏に位置していると言われており、RSI= N日間の値上がり幅平均÷(N日間の値上がり幅平均+N日間の値下がり幅平均)×100

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。